

COVID-19 流行下における日本の喘息患者の三学会合同（日本呼吸器学会、日本アレルギー学会、日本喘息学会）実態調査

令和4（2022）年1月17日

1）対象者

株式会社マクロミルにモニター登録されている16歳以上の喘息患者を対象とし、Webアンケート調査を行いました。2020年12月28日から2021年1月5日に2,060名（平均年齢45.8歳、年齢幅：15～85歳）の患者から回答をいただきました（表1）。

2）主なアンケート項目と回答

a. 喘息病状の変化

例年の同時期と比較して悪化した患者は17.5%、変わらなかったのが68.6%、好転したのは14.0%でした（表2）。

b. 受診状況の変化

定期受診をやめた患者は12.2%、受診間隔を開けたのは19.9%でした。その他、近隣の医療機関へ転医したり、オンラインや電話診療の活用が行われたりしていました（表2）。

c. 服薬状況の変化

自己判断で定期薬の服用を変更した患者は16.5%でした（中止：11.0%、増量：5.5%）。病状悪化のため吸入発作治療薬の使用回数が増加した患者は10.0%、同じく増悪のため経口ステロイド薬の使用が増加した患者は6.0%でした。また、増悪していないものの不安に感じて吸入発作治療薬の使用回数が増加した患者は10.1%、同じく経口ステロイド薬の使用が増加した患者は5.9%でした（表3）。

d. 感染者の状況

今回のアンケート調査では2.4%（50名/2,060名）の患者でSARS-CoV2に感染していたという結果でしたが、日本の15歳以上の人口：1億1千73万人〔令和2（2020）年12月時点〕のうち、令和3（2021）年1月3日時点のSARS-CoV2総感染者数は240,954人、感染率は0.2%に過ぎません。喘息患者はCOVID-19に罹患しづらいという既報（J Allergy Clin Immunol Pract. 2021 Feb;9(2):684-692）と相反する結果であり、今回SARS-CoV2に罹患した方が積極的にアンケートに回答してくれていたバイアスによる結果と思われます。

e. 感染者における喘息病状の変化

感染者の78%は喘息病状が普段より悪化しました。COVID-19治癒後も58%の患者で喘息

は普段の病状に戻っていませんでした（表4）。

3) まとめ

COVID-19 流行のため、定期受診を控えてしまったり、服用を中止してしまったりする患者がいたことより、オンラインを活用した診療形態の導入を考慮すべきであると考えられました。

また、COVID-19 に罹患すると喘息病状に悪影響が及んでしまう患者が多く、COVID-19 に罹患しないように生活指導を行う必要があると考えられました。

表1. 患者背景

項目	n	%
総数	2,060	—
性別		
男性:女性	1,071:989	52.0:48.0
年齢		
平均±SD	45.8±13.8 (歳)	
範囲	15～85 (歳)	
16～19歳	37	1.8
20歳台	216	10.5
30歳台	434	21.0
40歳台	584	28.4
50歳台	437	21.3
60歳以上	352	17.1
地域		
北海道	127	6.2
東北地方	105	5.1
関東地方	810	39.3
中部地方	356	17.3
近畿地方	313	15.2
中国地方	105	5.1
四国地方	60	2.9
九州地方	184	8.9

表2. 主なアンケート質問と回答(病状と外来受診状況の変化. N=2,060 複数回答可)

質問	回答	%
新型コロナウイルスが蔓延するようになってから、喘息は悪化しましたか (例年の同じ時期と比べてどうでしたか)	かなり悪化した	2.0
	悪化した	4.1
	少々悪化した	11.4
	変わらなかった	68.6
	少々好転した	7.5
	好転した	3.4
	かなり好転した	3.1
新型コロナウイルスが蔓延してから、普段の喘息治療のための外来受診を変更されましたか (複数回答可)	受診をやめた	12.2
	近隣の医療機関へ移った	6.0
	オンライン診療に変更した	5.0
	電話診察へ変更した	4.7
	受診の間隔をあけた	19.9
	処方日数を増やしてもらった	11.0
	特になし	51.5

表3. 主なアンケート質問と回答(服薬状況の変化. N=1,857 複数回答可)

質問	回答	%
喘息のお薬の服用状況の変化についてお伺いします。あてはまるものを全てお選びください	自己判断で定期の薬を中止した	11.0
	自己判断で定期の薬を増やした	5.5
	発作時に使用する吸入薬の使用回数が増えた	
	発作が出たため	10.0
	発作は出てないがいつ出るか不安なため	10.1
	その他	1.5
	発作時に使用するステロイド薬(飲み薬)の使用回数が増えた	
	発作が出たため	6.0
	発作は出てないがいつ出るか不安なため	5.9
	その他	0.6
特定の薬(オルベスコなど)を希望した	3.8	
特に変化はない	62.1	

表4. 主なアンケート項目と回答(感染者における喘息病状の変化. N=50)

項目	回答	%
新型コロナウイルスに感染して喘息は悪化しましたか(息苦しさ、ゼーゼー、咳、痰などが出てきた)	普段よりかなり悪化した	48.0
	普段より悪化した	30.0
	普段より少々悪化した	6.0
	普段と変わらない	16.0
新型コロナウイルス感染症治癒後、喘息の病状はいかがですか	普段よりかなり悪化している	58.0
	普段に戻った	30.0
	普段より良くなった	6.0
	無回答	6.0